



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	寺澤 一良
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2011年6月第2週号

第2315回



平成23年6月10日(金) 点鐘12:30 (曇り)

- ◆ロータリーソング 『我等の生業』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

・本日のゲストスピーカー
 (財)千葉県青少年協会 事務局長 入江 正了様

■ 会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

先週の例会終了後、小野さんのお見舞いに4名で行ってまいりました。快方に向かわれていて、皆さんに宜しくお伝えしてほしいとのことでした。

■ マルチプルポールハリスフェロー記念品伝達

竹尾 白会員

■ 副幹事より 伊藤 和夫副幹事

次年度の活動方針・計画書の提出は本日までとなっております。未提出の方は、宜しくお願い致します。

■ ニコニコボックス報告

☆榊原 行夫会員

入江様、今日のご多忙のところ、卓話をいただき有難うございます。公私ともにお世話になります。

☆植松 省自会員

入江様、本日の卓話、宜しくお願い申し上げます。

☆吉田 裕成会員

千葉県青少年協会事務局長・入江様、本日はお忙しい中をご来会いただき、有難うございます。卓話を宜しくお願い申し上げます。

☆寺澤 一良会員

瀬谷雑誌会報委員長が、榊原会長年度の数日を残して急遽、ご栄転で退会されました。2週間余りの短期間ですが、代わりを務めさせていただきますので、今まで瀬谷委員長がテープ起こしの担当を決めて頂いている雑誌

会報委員の方々には、今期が終わるまで予定通りの布陣で宜しくお願い申し上げます。

本日のニコニコボックス	8,000円	累計	608,000円
金の箱	710円	累計	34,608円

■ 出席報告 (会員数38名)

出席者数25	欠席者数13	ビジター 1	修正出席率 100%
--------	--------	--------	------------

千葉市内例会変更のご案内 [メンバーシップをご利用下さい](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	6/28	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	6/28	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	6/29	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	6/29	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	6/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	6/23・30	京成ホテルミラマーレ

★ 本日の卓話 ★

演 題…『大人が変われば子どもも変わる
 ～次代を担う青少年育成活動～』

卓話者…(財)千葉県青少年協会
 事務局長 入江 正了様



本日はプログラムご担当の吉田様からのご配慮で青少年協会についてご説明をさせて頂く機会を頂き有難うございます。

青少年協会は、昭和41年に設立今年で45周年になります。歴史は長いのですが、あまり知られておりませ

ん。最初の青少年課長が皆さん良くご存知の松戸節三先生です。松戸先生が41年に青少年課長を拝命して、率先して作られたということでございます。

青少年協会は、社会貢献活動の一環として認識を持って貰い、企業や団体やその関係先と連携していこうということで、民間との連携、行政との連携、地域との連携、

を通して、県が出来ないことをやっ払いこうということでスタートしました。

今、学校ではどんな事が課題になっているかということですが、今、子ども達は人間関係作りが大変下手になっております。そして、気持ちをコントロールすることが出来なくて、これもご存知だと思いますが、キレル子どもが大変増えてきております。そして、挨拶の出来ない子どもが多くなっています。次に規範意識が欠けている子どもが多いということです。他人を思いやることが全く出来ない自分中心の子どもが多いです。例えば、“江戸しぐさ”ということは今の子供達は全く知りません。傘をさす時などぶつかっても平気だったり、一握り腰を浮かすなんていうのは昔の言葉で全く知りません。また、家の大黒柱がお父さんということも知らないです。敷居を平気で踏むわけです。

では、何が原因かという、家庭の不和だと思います。家庭の絆に不安を持ちながら学校に来ています。これは経済的な問題等がありますが、一番大きな問題は、お父さんとお母さんが不仲ということです。子どもはそれに対して迷うようになるのです。学校もあまり家庭には立ち入っていけないので、先生がそのジレンマになっていることがあるそうです。

では、若者はどうかというと、彼らのいちばんの問題は決断が出来ないということです。学歴が高く考えることはするのですが、いろいろ理屈を言います。「それでは、どうすれば良いの？」と聞くと、そこで黙ってしまうのです。分からないのです。ですから、判断力はあるのだが決断力が育っていないということです。決断力がないということは、行動に移すことが出来ない。そういう若者が増えているというのが今の現状です。それから、その若者の現象で、「よく考えて元気のない集団」と「何も考えずに行け行けどんどの集団」の2つがあります。若者が悩んでいることは、自分がどう生きていけば良いのか分からない、自分の意見を言えない若者が増えています。放送大学の宮本先生が、この前の千葉日報の千葉教育大賞の時に、学生が自分の隣に来て「先生、私どうやって生きていったらいいんだろうか？」との相談を受け、びっくりしたと仰っていました。そういう子ども達は、どういう子かという、食べ物で言えば一人で食べている孤食、いつも同じ物を食べている同食。食が、今の食育文化を壊していると言えます。

では、子ども達とどのような関わりを持っていったら良いのかというと、「大人が子どもに背中を見せる」とよく言われますが、子どもに感動を起こさせる行動をするように努めていく。背中を見ただけでは子どもは言うことを聞きません。そういう行動を大人達がするというので、“大人が変われば子どもも変わる”ということに繋がってくるのです。

地域の子どもは、地域の大人と親が力を合わせて育てていくということが良く言われています。“地域で子どもを育てる”ということは、大変難しいことです。言葉としては分かるのですが、親が地域との関わりが全くない、隣が何をしているか全然分からない、マンションなど特にそうですね。そこで、私が今、言っていることは、「向こう3件

両隣」、これを復活させるべきだと思います。例えば、引っ越しをしてきた時に昔は引っ越しそばなどを配りましたが、今はそのようなことは全くありません。どういう家族構成なのか。だからお互いの顔の見える人間関係の形成が大事だと思います。ヒグチ薬局チェーンが、チェーン店を作っていく時に三角形で増やしています。同じ様に、自分の隣ということが、もの凄く大事なのです。NHKのアナウンサーが、手を広げてこの間に入る人は自分の奥さんしかいない、この自分の手を伸ばした先は赤の他人だと言っていました。だからここを大事にする。要は、「自分がいないと会社は回らない」という人がいますが、代わりは誰でもいるのです。ただ奥さんの代わりは誰もいません。その代わりというのは、例えばその人が仕事をやっ払い、3日間その人がいなくて困るというのは、その人の仕事のやり方が悪いわけですよ。ですから、大事なことは、まず身内を大事にするということと、顔の見える隣近所を大事にすることです。これが原点ですよ。関係問題も、その部分をまず一握りにしてそこからスタートしていく。そうすると、そこで共感する人が入ってくるということで、そこからまず「向こう3件両隣」ということをきちんと復活し、お互いの顔の見える人間関係の形成を大事にしていく。そして大人が、感動を起こさせる行動を示していくということが、子ども達の関わりの中で大変重要なことだと思います。

次に子供達の育成の活動のポイントは何か？ということですが、これは、体験を通して感動を体得させるということです。今、体験するということがあまりありません。バーチャルでみんな体験したような感じです。旅ですが、旅番組を見て行った気になってしまう。それで満足しているのです。子ども達は、実際に体験するということがなかなかないのです。袖ヶ浦の中学校で子ども達にそういう事をやらせるのに何が良いだろうかと思った時に、先生が、仲間との感動のためにソーラン節をやったそうです。今までバラバラだったのが一体感が出たとのこと。子ども達は、感動することに憧れているのではということです。この時に大事なことは、大人の態度なのですね。どういうことかという、子どもの言葉を先取りする代弁行動があるのです。例えば、風邪で学校を休む時に親が代わって電話を掛ける。子どもは何でも親がやってくれると思ってしまう。だから、自分の言葉が出ない。だから、自分はどうしたらいいの？というような若者になってしまうのです。そして、ひとりになってしまう。親は子どもの為に一生懸命やっているのですが、子どもからすると全く関係ないのです。テレビのインタビューで、子どもにどうでしたか？とマイクを向けると、必ず言うのが、「面白かった。」それで終わりですよ。何が面白かったのかというのは、全くないです。放送もそれで終わっているのです。有名な話ですが、ある仙台の教育委員会の人が子どもと話している時に、「もっと自分の意見を言いなさい。」と言った時に、子どもが、「大人は待って欲しくない。」と言ったのです。「例えば、自分が背広を作った時に、ちゃんと出来るまで先生は待つでしょう？どうして我々のことを待てないんですか。」大人が代弁行動をし、じれったくなって全部口を出してしまうのです。これは駄目、あれ

は駄目、あそこ行っちゃ駄目。電車に乗っていてもそうですよね、教育ママがみんなそういうふうに話しています。だから子どもは黙っているわけですよ。黙って何をやっているかというゲームをやっています。会話がいないんですね。だから、ある程度大人がやったらあとは子どもに任せることですね。



これを行っているのが、木更津にある里山保育なのです。ニホンザルの研究者がやっているその園では、子どもに裸足で子ども社会を作らせるのです。あまり関知をしない。だから、田んぼに入って腕を折ろうが何しようが関係ない。とにかく子どもに任せるのです。そうすると子どもが5人いるとすると、そこにリーダーが出てくるのです。子ども同士で喧嘩が始まります。すると、上の子がそれに対してあんたが悪いとか、謝れとかいうのです。しかし、頑固な子どもは絶対に謝らないのです。ところが、翌日になるとその子どもがやって来るんですよ。そこに今度は仲間が出来てきて謝る。すると上の子がそれをなだめる。そういうふうにある程度までしたら大人は引くということが、今後の子ども達にとって、我々の大きな役目ではないのかなと思っております。

次に、私どもがやっていることをお話します。先ず一つ目は、「中学生の主張」でございます。これは、千葉日報の岡田さんが審査員長なのですが、今年で33回目を迎えますが、約35校から3000通くらいの作文が集まります。これを全部審査するのです。実は、昨年、吉田様に1次審査をお願いし、100編の作文を読んで頂いたのですが、上位を付けるために夜中まで奥様と一緒に読まれたということです。その時に千葉県知事賞を取ったのが中学1年生で、半年前までは小学校6年生だったんですよ。進学校ということもあるのですが、大変優秀でびっくりしました。特別賞を貰った子は手話でやったのです。こういう方々を皆で選んで文集を作って、全部の中学校に渡しております。これが私どもの中核の事業でございます。今年も9月に開催しますので、皆さんにもご案内をしたいと思っております。

次に青少年女性会館ですが、先般、行革委員会があって非常に厳しい査定を受けたのですが、何とか継続していくようになりました。そして、地域との憩いの交流で大学生に実行委員会を作り出してもらい、高校生と大学生の12人が実行委員になって、各イベントを行います。

天台で農園を借りて、そこで農作物の収穫体験をしております。県の農林の出身の方で、日本市民農園連合会長の廻谷氏が、自分の給料をこつこつ貯めて、1年に1回、オランダとかそういう所に勉強に行っていたとのことなので、是非子ども達に教えて貰えないだろうかということで、このグループとタイアップをして、この前、サツマイモ、ハウレンソウ等を植えました。それを収穫して実際に食べることが食育になるのです。

その次に、徳育体験でございます。鹿野山のマザー牧場に禅道場があるのです。そこの課長会議では、まず座禅をしてから会議を始めるそうです。そして写経をする。子ども達は正座なんてしたことがありません。先ず、そこからビックリします。今後、観世流の井上先生により、能

の体験をする機会を持ちます。能というのは、五感を使って色々体験するということですが、教育の欠けている部分が全部それに入っているということでもあります。そういう意味で座禅も1つの要素としてやっております。お茶を戴くときは、隣の人にお礼を言います。人を立てる、敬うということで、心としては大事な部分です。子ども達にそのような日本の古来の伝統的な文化を体験をさせるということもやっております。

次に命の大切さを子ども達に知って貰うために花を植える活動しております。花というのは匂いもあれば香りもあるし、水をやらないと育ちません。あるところで、花を植えたら水をやることを知らない子供がいました。実際に保育園児に素手で土をいじって花の苗を植えて貰いました。その時に、花は今赤ちゃんだから大事にそっと植えるように、そして優しく水をかけるようにと教えていきます。その植えたものは、正面玄関に飾るのです。この苗は、市原さんという園芸農家の方から、毎年2回、200株ほど戴いております。

次に千葉の伝統工芸についてですが、千葉県では指定工芸品士は172人おります。その中で私どもは、房州団扇作りをやりました。また、トンボ玉もやりました。子ども達はトンボ玉というのが初めてで分からないのですね。でもこれは応募者が多くてお断りした方もいます。千葉には、こういう素晴らしいものがあるのだということ子ども達に知ってもらって千葉の素晴らしさを伝えていきたいと思っております。

社会貢献活動の一環として、書き損じた年賀はがきや暑中見舞いはがきが沢山出ます。これを集め、郵便局に持って行って切手に替えて換金します。タイの中学生が1年間の授業料が1万円なのです。そうしますと書き損じた葉書、280枚で1人分の奨学金を支援することが出来るのです。また、日本で余っているピアノを集めて持って行ったりしました。

青少年健全育成運動は、皆様のご理解とご支援が必要です。現在、千葉県青少年協会の会員は390人、会費収入は3,522,400円です。

年会費、個人は一口2,000円でコーヒー10杯分でございます。地道な活動ですが、是非とも皆様のご支援をよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

(文責 鮫島 永一会員)

第2316回例会

日時⇒ 平成23年6月17日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『ゆめ半島房総の美術 パートII』

卓話者⇒ 川合 征栄会員

第2317回例会

日時⇒ 平成23年6月24日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『会長挨拶』

卓話者⇒ 榊原 行夫会長

〈クリスタルボウル演奏〉

奏者 佐々木 里江様 山内 恵様

